

2011年食料・肥料・燃油再び高騰

～農産物の国際価格過去最高を更新、食料危機再燃か？

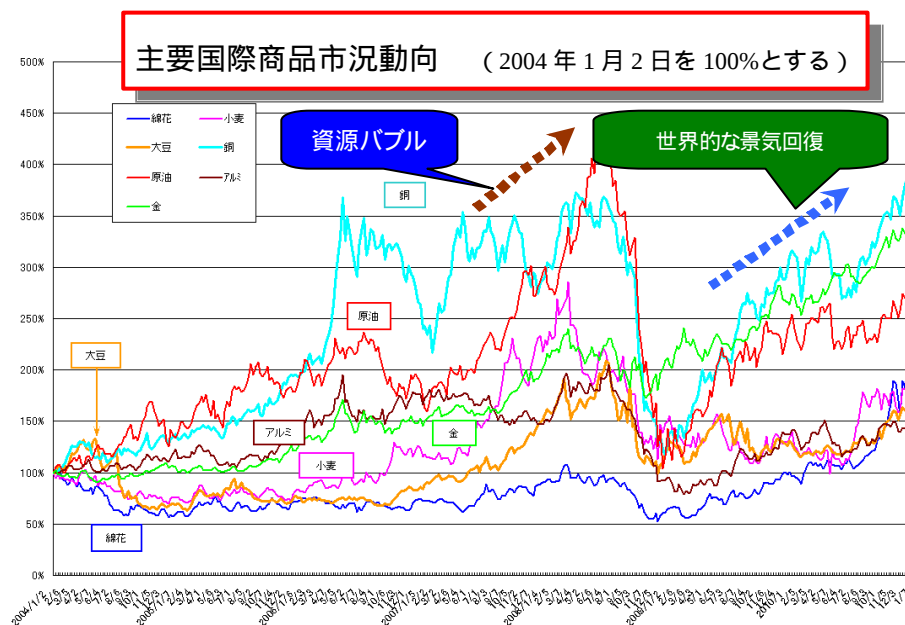
全国的な寒波の到来で灯油価格が上昇している。今年に入って灯油価格は2008年11月以来2年2ヶ月ぶりの高値である。原油価格は1バレル90ドル前後の高値圏で推移し、石油情報センターによると国内の灯油の在庫は低水準で、昨年同期比17%少なく当分上昇基調は続きそうだ。

また、食料価格も再び高騰し、世界の食卓を直撃し始めた。1月の国連食糧農業機関（FAO）の穀物、油糧種子、乳製品、食肉、砂糖で構成される食料品バスケットの月間価格変動を測る食料価格指数は、昨年12月、世界各地で暴動を引き起こした2007～08年の食料危機時の水準を上回り、2カ月連続で過去最高を更新する見通しとなっている。昨年の黒海での深刻な干ばつや、オーストラリアの豪雨、アルゼンチンの干ばつに加え、北アフリカと中東の政局不安を受けた需要増加期待で、穀物価格は数年ぶりの高水準に上昇している。また、米国の穀倉地帯が吹雪に見舞われていることを受け、シカゴ小麦相場は2日も引き続き高騰している。

各誌報道によると、07～08年の食糧危機時には、原油・燃料価格高やバイオ燃料の利用増加、悪天候、先物市場の上昇などにより食料価格が押し上げられ、エジプト、カメルーン、ハイチなどの国々で、価格上昇に反対する暴動が起きていた。FAOの主要食料価格指数は、異常気象による不作や新興国の需要増で農産物の国際価格が高騰し、異常気象、農産物市場への投機資金流入が要因で、とりわけ高騰が目立つ新興・途上国では国民に不満が広がっている。高成長を続ける中国では、インフレ圧力も強く、昨年11月の消費者物価指数の上昇率（前年同月比）は5.1%と政府目標の3%を大きく上回った。このうち食品価格は11.7%も上昇。中国・上海の豆腐の値上がりは、「数カ月前は1パック1.6元（約20円）だったのが、今は2元」「1キロ4元だったコメは1.5倍の6元」で国民の不満が募る中、中国政府は、野菜運搬トラックの高速道路料金を免除するなど物価抑制に躍起だ。トウモロコシの国内需要が旺盛な中国は、2010年130万トンの輸入が2012年には1500万トンの見込みで、本格的な輸入国となった。

インドではカレーに欠かせないタマネギの価格が昨年末、1週間で2倍以上に急騰。国民の批判が高まり、政府は補助金を出して価格を抑制するなどの対策に乗り出した。アフリカはより深刻で、アルジェリアでは、砂糖や食用油などの価格が2カ月で約2倍に急騰。高失業率と相まって国民の怒りがエスカレートし、5日に始まった暴動では少なくとも5人が死亡。事態打開のため、政府は8日、砂糖と食用油の価格の約40%引き下げを決めた。チュニジアでは食料高騰へのデモが激化、ベンアリ

（次ページへ続く）



(前ページより続く)

大統領が国外に逃亡し、23年間続いた独裁政権が1月14日に崩壊した。08年には世界30カ国以上で暴動が発生したのに比べると、混乱はまだ小規模だが、食料価格はさらに上昇する余地があり、危険な領域に突入しつつある。

コーヒー豆も、歴史的な高値圏に

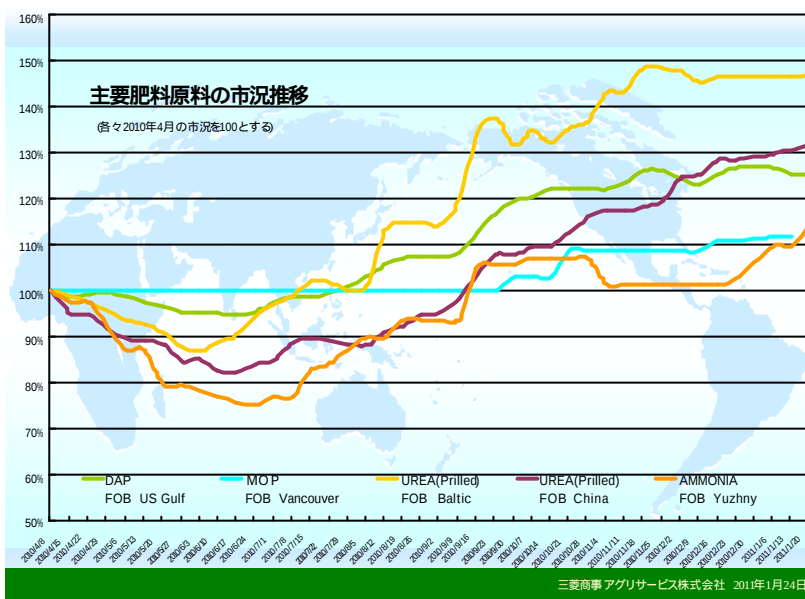
穀物や乳製品などの国際価格を指数化した主要食料価格指数(02～04年の平均が100)は昨年12月に214.7ポイントと半年間で32%も上昇。08年6月(213.5ポイント)を2年半ぶりに上回り、過去最高を更新した。小麦、大豆などの穀物は08年につけた史上最高値に迫り、約30年ぶりの高値となった砂糖などが指数を押し上げた。指数に組み込まれていないが、コーヒー豆も歴史的な高値圏にある。

価格高騰の要因の一つに、新興国の食料需要の大幅拡大がある。砂糖は、新興国で菓子向けなどの需要が増加。砂糖消費量は中国とインドで5年前と比べ3割、ブラジルで15%増えた。また、世界的な異常気象も影響。ロシアは昨年8月、干ばつで不作の小麦輸出を停止した。そして年末には、洪水でオーストラリアの小麦生産が打撃を受けた。米国の金融緩和で、今後も値上がりが見込める農産物市場に投機資金が流れ込んでいることも相場上昇に拍車をかけている。

高騰が続けば、途上国中心に暴動が広がった08年の食料危機のような事態の再来につながりかねない。

FAOは食品価格が一段と上昇する可能性があるかと警告し、世界の気象パターンに懸念を表明している。今年、食料危機が再発する恐れもあり、先進国の中で食料自給率が低い日本は対策を迫られそうだ。

右上図は、主要肥料原料の市況推移である。肥料価格は、農産物価格に連動して価格上昇する。大幅な値上がり前に早めの手当てが必要だが、土壌診断で効率の良い施肥も必要だ。



2011年の天候は冷夏予想

「寒試し」による今年の気象予報

1月の小寒から2月の節分までの天気を観測し、1年に置き換えてその年の天候を予測する「寒試し」と呼ばれる気象予報がある。気温・湿度の推移を1年に引き延ばして当てはめると、かなりの高確率で(暑いか低温か、多雨か乾燥かという)傾向が当たるといふ。北陸から東北・北海道にかけて毎年行われている、一種の民間気象予測で、結構知る人ぞ知る方法である。水稻地帯は数年に一回の冷害対策のためこの気象予想を活用している生産者が多い。先日、青森県弘前市で今年の青森地区の天気予想を発表した。

2011年は雪解け進み春の訪れも早く、例年よりも桜やりんごの開花が早め。春分を過ぎる頃には気温も上がり、順調な気候となるが突然の雷・大雨などがあり、梅雨期からの冷え込みが強く冷夏型となる。大暑(7月20日)を過ぎても例年の気温を取り戻すことは出来ず、秋分(9月20日)頃に暖かさがくる。夏日の少ない年と予想している。平成15年の天候に似ているようだ。「3～7月までは低温が続く降雨量も多いため、低温障害や湿害に注意が必要」としている。

本店移転に関するご案内

来る2月19～20日、本店事務所が移転致します。移転に伴い、業務時間を一部変更させていただきますので、下記の通りご案内申し上げます。ご注文等につきましては、皆様方にご不便、ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

新事務所開業日：2011年2月21日（月） 9：00より

新住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町一丁目10番地（麹町広洋ビル1階）

最寄駅：東京メトロ半蔵門線 / 半蔵門駅（徒歩1分）、有楽町線 / 麹町駅（同5分）

2月18日 12:00以降、電話・FAX・メールの全ての回線が不通となります。ご注文に関しましては、12時までのご連絡にてお願い申し上げます。緊急の場合には、各営業担当者の携帯までご連絡下さい。

■ 電話番号 ■

東京事業部 03-5275-5511 東京支店 03-5275-5511

事業開発室 03-5275-5511

原料部 03-5275-5512 特販部 03-5275-5513

青果部 03-5275-5514 米穀部 03-5275-5515

総務経理部 03-5275-5516

■ FAX 番号 ■ 03-5275-5558



引越しまで、いよいよ10日となりました。この場所に通い始めて十ウン年。いつでも行けるからと、名所と呼ばれる旧岩崎邸庭園にも足を運ばずに去りそうです。湯島が懐かしくなったら、訪れてみたいと思います。

編集局長：小田原次洋

アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011

E-mail : macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>

